

本を選ぶ

高校図書館版

NO.32 2001年(平成13年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-517 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

インプットアウトプット

読みつけ、重ねていくうちに、何かが生まれてくるのではないか。そういう期待感を与えてくれる、今、自分が味わっている読書のこの楽しさに、なぜ、より早い時期に、目覚めなかったのだろうか。

私の母校は、佐賀県武雄市にある男女共学の県立高校で、木造で二階建ての校舎は、御船(みふね)山と呼ばれる万葉の里の趣のある山の麓に包みこまれるように、今も立っている。別館の図書館はさらに麓に近く、秋になると金木犀の香りと冷んやりとした空気の流れ込む環境の良い場所にあった。ところが、ここに足を運んだのは数えるほどしかない。司書の中村繁子先生とは全く接点がなかったわけではない。先生は七級年上の同じ高校に通った兄をよくご存知だったので数回ほどお話したことがある。私は知らなかったのだが、兄は案外読書家だったのかもしれない。父は、私が十歳の時に亡くなった。今もそのままにしてあるが、父の本棚にあるルソーの『エミール』、大久保康雄訳ミッチェルの『風と共に去りぬ』上・中・下を夢中で読んだ記憶はある。しかし、家族や友人からは読書への刺激らしいものは意外と受けなかった。本を読まなかったことを人のせいにするのは言い訳なのかもしれない。水を飲みたくない馬には水は飲ませられない。中村先生がそうおっしゃったわけではないが、今にして、先生の静かで穏やかなあの笑顔は「読書は強

要はできないのですよ」と、語っていたようにも思える。その後、長崎の短大英文科へ進んだがその時にもまとまって読書をした記憶はない。

それにしても、最近の自分の読書への興味は尋常でない。当初はバラバラが次第に系統立ってきたが、興味が湧くジャンルの本を片っ端から読破している。その場で得た知識をものにしようとする性急さも伴っている。海外に住んでいるが、日本書籍の入手は難しいかということ、以前ほどではない。入手の困難さを救ってくれたのがIT技術である。雑誌や新聞の書評で選んだ本をインターネットで買物かごに放りこみ、注文のボタンを押しておく、十日後には、書籍の小包が確実に海を越えて届く。小包を開け、取るものもとりあえず、海绵が水を吸収するかのごとくに読み漁る。次に読みたい本のリストは大かた頭にある。次の注文を出す間には、地元図書館の日本書籍コーナーからも借りてくる。英語の書籍も必要に応じて目を通す。最近のように、自分をこれほど読書に追い立てているものは何なのだろうか。今の自分を考えて、どうやら、文を書くというアウトプットの場を得たことが、インプットのための読書に駆り立てているようだ。でも、それを見つけた時期が遅かったために、試行錯誤のやり直しや発展の期間は、すでに限られている。だとすると、子ども、高校時代と早い時期に、何らかのアウトプットの機会があったら、読書に刺激を求める気持ちは大きく沸いたのかもしれない。では、そのアウトプットの機会を、例えば高校時代に、どう見つければよかったのか。実は、それは、今でも分からない。

(千綿 有子:フリーランス・レポーター)

岩槻商業高校図書館の産休代替を終えて

石川裕美

はじめに

私は今まで、アルバイトや臨時採用の司書として、いくつかの図書館で働いてきました。

私が岩槻商業高校に産休代替として赴任したのは、2000年8月31日のことでした。このお話があったとき、司書の友人から、「木下さんのところで代替やるの？ 大変だけどガンバってね」と言われました。私は、それまで、木下さんのお名前だけは聞いたことがありました。それも「すごいらしい」という話で。

任期が始まる前に何回か学校を訪問して学校の様子や通常の業務について説明をうけました。通常の貸出返却を行う端末の操作方法・予算・選書・図書館を使った授業利用について・取引のある業者・図書委員会の活動内容等に加えて、週に1度発行されている図書館広報紙『らいぶらりいんふおめーしょん』、また近隣の高校図書館や公立図書館とのネットワークを組んでの協力体制の説明をうけた後に、木下さんに知りたいことはないかと問われて「1日の仕事の流れ」と「一年間の行事と作業の流れ」についてをまとめてほしいとお願いしました。

仕事で特に申し渡されたのは、カウンター業務を優先して欲しいということ、そして、本の受け入れはリクエストの図書を優先するということでした。カウンターは、その言葉通り貸出返却等の業務以外にも新着図書の装備、発注、新着図書のデータ入力も出来るように必要な道具がそろっていました。なので、昼休みや放課後に限らず授業で図書館を利用しているときにでもカウンターで待機していることができたのだと思います。また、リクエストの図書が納品されたら、当日か遅くとも翌日には貸出ができるようにするという話を聞いて大変驚きましたが、それも心がけていればできるのだということを体験させていただきました。

始まってみれば

しかし、木下さんと交代した後しばらくは貸出の冊数・利用者の数が格段に減りました。交代

前、木下さんから「貸出を減らさないでね」と言われていました。友人から「様子はどお？」と聞かれると「貸出が…、閑古鳥が鳴いています」と泣き言を言っていました。すると、みんな口をそろえて「あなたが木下さんのようにはできるわけがないから、石川さんは石川さんらしくやるしかないよ」と言ってくれたものでした。

基本的に木下さんの代わりである私が、木下さんのやられていたことは最低限続けていくなかで「石川らしく」とは何なのかを考えました。そして、「いつでも図書館にいる司書」でありたいと思いました。

けれども、司書が代わって利用の減ってしまった図書館に一人で居続けるということは思ったよりも寂しいものでした。大げさな言い方をすれば、学校の中で一人忘れられてしまっているという思いにとらわれたときもありました。許されるのならば校内のどこかで、誰かとお話をしていたという気持ちもありました。でも、授業中であれ、昼休みであれ、図書館に足を運んでくれた利用者に対して「いつでもいる」というサービスを提供したかったのです。いることによって貸出等の手続きから、探している本の提供、そしてくろいで気軽に話せる人間のいる息抜きの場所としての図書館を提供することが可能になると思っていました。「いつ、だれが来ても石川は図書館にいる」ような司書を目指していました。だから、電話などの用を足すために事務室・職員室に出かけても走って出かけて走って戻るような具合でした。少し慣れてきたあたりにお話した先生に「いつも石川さんは走っていたからきっとすごく忙しいんだな、と思っていたよ」と言われて、自分がどんな風に思われていたのか気づいた次第です。また、任期の終わる直前あたりには、図書館を訪れた生徒が閲覧室に司書がないのを見て司書室にやってきて「一瞬いないかと思ったけどいたね」と言い、「いつでもいるよ」と返事をする。「そんな感じだよね～」と言ったことがあり、出かけるときの貼り紙が扉についていないときには「図書館に司書はいるのだ」と思っていてくれ

入受←お貸←書数

たのがわかってうれしかったです。

「図書館にいけばわかる」を目指して

また、私は、「ごめんなさい。そういう本がここにはないからわからないです」とは言わないようにしました。これは、木下さんの今までのさまざまな実践がなければ実現できなかったのだと思いますが、岩商の図書館でわからなければ、ネットワークを組んでいる他校の図書館に聞くことができました。近所にある市立図書館にもお世話になりました。また、県立図書館にお願いして調べてもらうこともしました。その結果、利用者の知りたかったこと（資料）を提供することができたのでした。「知りたいことは図書館で司書に聞けばわかる」と利用者に思ってもらえることができるようになればいいと思って、「わからない」とは言わずに「今はわからないけど調べることができるから待っていて欲しい」と言うことにしました。学校図書館は、授業で決められたことを調べる以外にも自分の好きなことを好きなだけ自由に調べたり学んだりすることのできるステキな場所なのだからそのことを知ってほしいと努めてきました。この学校は授業でも図書館を使うことがわりと多いので、そんなときにも「必要な資料を用意する」ことは絶対条件となっているように感じました。

そのせいかどうか、何か月か経つと貸出も徐々に増えてきました。その理由を周囲の人に聞いてみたところ「慣れてきたからではないか」という声が多かったのですが、慣れてきたとは具体的にどういうことなのでしょう。まず、利用者が石川がいる図書館に慣れたということ、そして石川が利用者に慣れ、顔を見てサービスができるようになってきたのだと思います。図書館に石川がいても使い勝手がいいとは言わないまでも悪くないと思ってもらえたのかもしれない。

そして、私も初めは選書のときに「図書館にあって欲しい本」ばかりを多く選定していたのですが、後々は「利用者が図書館で読みたいと思う本」も考えて選定に入れるようにしました。それは、利用者の興味や関心にこちらが関心を持って接してアンテナをはっておかないとできません。

私のアンテナが正しくそれをキャッチしていたかどうかははっきりしませんが、それが貸出冊数の増加と関連しているのではないかと思うこともあります。

『らいぶらりい いんふおめーしょん』は、2週間に一回にしました。利用者のリクエストのためや授業での利用を迎えて迅速に対応するために図書館間での協力は欠かせませんでした。その合間にも時間ができると、岩商の図書館にどんな本があるのかを知るために書架整頓をしつつ、書架の間をぐるぐると歩いていました。なにしろ交代してすぐにでも「あの本はどこ？」に答えなければならぬのですから。

4月には図書館オリエンテーションがあったり、図書委員会の生徒をみたり、委員会で文化祭に参加したりと忙しいのには事欠きませんでした。それでも、放課後には声をかけやすいように「暇そう」を装ったりしました。一年生の利用が多いのを見ると、大変に感じたオリエンテーションもやってよかったと思いました。

終わってみれば

こうして、忙しく働いているうちに任期は終わりました。一年前に比べて貸出冊数はグンと増え、生徒たち・先生方にも慣れ、日常業務のペースも自分なりにつかめてきたような気がしてきた頃です。決まっていたこととはいえ、やめていくのは非常に残念でくやしく感じました。しかし、自分がこれまでにガンバってこられたのも木下さんが作ってくださった土台のお陰ですし、困ったときに相談に乗ってくださったたり、励ましてくださったたくさんの方たちのお陰です。今までの司書としての生活ではわからなかったことが岩商での経験の中でたくさんありました。自分では無理ではないかと思うこともありましたが、それをやり続けることによって多くのことを学ぶことができたと思います。今では、この機会を与えてくださった方々に感謝すると同時に、働く前に聞いていた「木下さんはすごいらしい…」という言葉の意味がわかったような気がします。

ありがとうございました。（いしかわ ひろみ）

選書→発注→受入

スタッフマニュアルをつくらう(8)

木下 通子

子どもが一歳になる10月20日に職場復帰しました。上の子の時には夏休みからの復帰で、私もリハビリ気分で9月からの新学期を迎えられたのですが、今回は2学期も半ばからの復帰。まるつきり浦島太郎のような気分です。それでも、2週間もするとなんだか元のペースに戻ってくるから不思議です。

復帰してすぐ家庭科の先生が図書館を訪ねてくれて、授業の予約が入りました。「子どものおもちゃをつくる」という授業の導入で、エプロンシアターやパネルシアターの実演を頼まれて、早速三年生の前で、市立図書館から借りてきた「3匹のこぶた」などの実演をしています。授業が入ると、生徒からも「復活（復帰じゃなくて復活だそうです）したんだ！」と声をかけてもらえたりして、覚えていてくれたのね！と感激しています。

同じ育児休業で家にいるのでも、子どもが一人と二人では大違い。自宅の引っ越しが重なったせいもあるのですが、本はおろか雑誌、新聞を読む時間もとれず、見るテレビは子ども番組が主で世間から隔離された生活を送っていました。学校司書としての基本的常識が一年分抜けてしまったのです。復帰したばかりの今、いちばん困っているのは図書館の旬の本情報が把握できていないことです。

復帰してすぐにとまどったのは、パソコンの操作でした。家ではパソコンを触っていなかったので、バックアップをとるのも「どうするんだっけ？」と思い出しながら、入力するのもドキドキ。でも、元々やっていたことなので、こちらはすぐにペースがつかめてきました。

今年は先生の異動も多く、知らない先生と一年生と会うのもドキドキだったのですが、こちらも時間が解決してくれて、自分のペースで接することができるようになりました。

私の代替をお願いした石川裕美さんには文章化

したマニュアルを残したのですが、復帰して「マニュアルで何か変わったことある？」と聞いたところ、パソコンの入力方法で間違いがあったことを指摘されたくらいで、後は特に困らなかったようでした。復帰して、私自身が不便を感じて文章化して置けば良かったなと反省したのが、選書→発注→受入までの流れです。

うちの学校では、図書館予算の書籍費を、県で指定している「備品図書費」、「図書部会選書」（司書裁量を含む）、「教科図書現物購入」、「リクエスト」の四つに分けています。

図書館として常時取引をしている書店はだいたい三店で、割引率や納品のスピードの関係で、リクエストと図書部での選書はA書店に、定期購読しているシリーズもの、備品図書などのまとまった本はB書店に、教科の先生を連れての現物購入や司書が店頭買いで現物を購入する場合はC書店にと使い分けています。

注文を流すのは、A書店とB書店が主ですが、図書部会で選書資料を回覧し、部会で承認されて発注した本はエクセルでデータ管理し、その形式でファックスを流し、リクエストや司書がこの本ほしいと思って発注する本は、手書きでファックスを流し、その用紙をファイルするという形を取っています。

代替の石川さんには言葉でそれを説明し、予算管理の差引簿を渡しただけでした。その後困ったという話は聞いていないので特に不便はなかったようですが、私が石川さんが発注した本を受け入れる立場になって、この作業をもっと整理しておけばよかったと思いました。

受入の方法はパソコンのマニュアルを見ればわかるのですが、この本はリクエストで買ったのか、図書部で選書したのかは記録を見ないとわからないわけで、パソコンに入力する時に困るのですが、一人でやっている時は自分の記憶で補えるのですが、発注記録が残っていないと、わかりにく

はじめての司書業務

い本が何冊か納品されて、そのつど石川さんに電話でききました。

今は、パソコンへの入力もTRCDからのダウンロードが主であつという間に終わります。発注から受入までの流れを上手にシステム化したいというのが、3月までの課題です。

はじめに、旬の本の情報が把握できていないと書きました。抽象的な言い方になってしまいますが、「生き生きとした図書館活動を創る」というのは、やっぱり司書が本を知っていることが大事というのをしみじみと感じています。本を知るといのは、自分の図書館の蔵書を把握しているというのと、新しい本の情報を知っている、本の内容を知っているという広い意味にわたってです。

図書館に活気があるというのは、利用者がたくさん来て、本が回転しているということで、やっぱり貸出が「生きた図書館」をはかる一つのバロメーターです。その貸出を活性化するのは、選書が大きなポイントです。

世間の流行の本を選ぶのは、新刊情報誌を使ってできますが、自分の図書館の利用者ニーズにあった選書、利用者の顔が見える選書は、司書のアンテナと経験がものを言うので、休みの間に鈍ったカンを早く取り戻さなくてはと感じています。

利用者の顔が見える選書というと、利用者と話をして要求をつかむというのが、まず考えつくと思います。もちろんそれも重要なことですが、そういう選書をするために、本当はいちばん大事だと思っているのが、司書が本を読むことです。

「本を読んでそれをいろんな形で紹介できる」。本を読むだけなら利用者と同じです。自分が読んだ本をストックして、利用者から要求があった時に、書評の形だったりブックトークの形だったり、いろんな形で紹介できるのが、本の専門家としての司書の大切な技術です。意識的に仕事を創っていくことの難しさをあらためて感じています。

★

選書を予算の上から見ると

- ①備品図書費 (県指定)
- ②図書部会選書
(司書裁量分を含む)
- ③教科図書現物購入
- ④リクエスト

★

書店について見ると

A書店：リクエスト
図書部会選書

B書店：定期購読
備品図書

C書店：店頭で現物買い

★

発注管理

- ①エクセルのデータで発注
部会で承認されたもの
データで管理
- ②手書きFAXで発注
リクエスト・司書裁量
FAXを綴じて保存

私ごとですが、この3月には絶対転職したいと思っています。子どもが二人いるので家から近い学校図書館というのが、最大の希望条件なのですが、多少無理しても転職したいと切に願っているのは、2003年があるからです。どうせ転職するのなら、司書教諭が発令されるせめて1年前に転職して、その図書館の活動を把握したいと考えている方、多いのではないですか？

私が書かためているマニュアルが、次の学校で活用できるものなのか。次号を乞うご期待！

(きのした みちこ：埼玉県立岩槻商業高校司書)

教員の立場で学校図書館をいとおしむ

桜井 康夫

1997年の学校図書館法の改正をうけて、司書教諭の養成・発令とその配置はいよいよ現場段階の問題となっています。

学校図書館に置かれるべき「人」が、司書の資格を持った教員なのか、教育職として位置づいた司書なのかは、論議の対象となる問題でした。その問題に決着がついたわけではありませんが、司書教諭の資格をもって、学校図書館に長らく関わってこられた桜井康夫先生に、お話を聞いてきました。

先生は、高等学校の教員歴28年。ご専門は国語科です。現在の勤務校は、八年目。奉職してから二校目です。以前は、工業高校に20年間勤務していました。このような長期にわたって異動がなかったのは、工業高校の普通科担当ということもあったでしょうが、先生ご自身、図書館の仕事によるこびを感じておられて、異動の希望を出さなかったという事情もあるようです。

前任校での20年間と、現在の学校で6年間、図書館部に属していました。現在は、校務としての図書館を離れていますが、埼玉県高等学校図書館研究会の副会長として、県下の高等学校の図書館の発展充実に尽力されています。また、学校図書館を考える会の会員として、市民のお立場から活動を支えておられます。

桜井先生の学校図書館についてのお考えは、この28年間、築いては崩す連続だったそうです。お目にかかったときは、ちょうど切り崩しつつあるところだと前置きをして、とくに大事なことを二点お話しくださいました。

司書と司書教諭の役割分担

司書教諭が司書にとって代わるのではなく、新しい職務を創造的に担っていくのだという観点に立つべきでしょう。図書館と教室のパイプ役となることや、校内組織の改革な

ど、未開拓の分野で力を発揮することが期待されます。

基本的には、相互の専門性に対する尊重があれば克服が可能な問題であるはずですが。図書館学を学んで来た図書館の専門職としての司書と、教諭として生徒に授業をした経験のある司書教諭とが、専門性を生かして、共同で学校図書館の運営にあたるというのが、当面めざすべき学校図書館スタッフのあり方となると考えられます。

「知」の全体に触れ格闘する青少年を支援

文部科学省の「情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」の最終報告(1998/8/5)では、学校図書館が学校の情報化の中核的機能を担い、司書教諭には、読書指導の充実とあわせ学校における情報教育推進の一翼を担うメディアの専門職としての役割を求めています。

しかし、学校図書館＝情報センターという図式をもって学校図書館全体を捉えることは誤りでありであるばかりでなく、危険です。

学校図書館で扱うのは、「データ・ファクト・テキスト・イメージなどの断片」ではなく、「全体として一つのものとして存在する」「発展的であり、蓄積的な」知識の全体でなければなりません。人間形成期にあたる青少年期にあって必要なのは、個々ばらばらな情報の操作能力ではなく、そうした「知」の全体に触れ、これと格闘することです。それを支援するのが、学校図書館です。

ここ数年感じることなのですが、詩でも小説でも教科書で出会ったものをきっかけに芋蔓のように読書のレパートリーを増やすということが最近少なくなったように思えます。だからこそ、学校図書館の役割は一層大きくなっていると思います。(さくらい やすお; 埼玉県立志木高等学校)

コンビニの人気商品の食品添加物を分析！食品添加物入門書

食品添加物の基礎知識から、表示の問題、毒性、アレルギーまで
実際の商品の表記をピックアップして解説！
食品添加物全827品目の危険度評価一覧付き！

コンビニ時代の食品添加物

渡辺雄二 著

A5・152頁 定価：本体1238円＋税

●低年齢化する拒食症、初期症状サインを見逃さないで！

拒食症・過食症とは — その背景と治療

生野照子・新野三四子 著 B6・296頁 定価：本体1900円＋税

●テレビや新聞の食品情報を正しく取扱選択するために

現代を生きぬく栄養学

—「最新情報」食べものと体のしくみ

吉田勉 著

A5・128頁 定価：本体1238円＋税

〒173-0004

東京都板橋区板橋1-35-9 エムアイビル6F

Tel 03-3579-7851 Fax 03-3579-7854

芽ばえ社

朝鮮半島の歴史がマンガでわかる！

マンガ 朝鮮史 全3巻
ものがたり

徐永洙（ソ・ヨンス）／野崎充彦・日本語版監修
A5判・上製カバー・本体各1500円（分売可）

ISBN4-336-04331-0 / 04332-9 / 04333-7

意外に知らない朝鮮半島の歴史を学ぶための、最適の入門書。神話・伝説・民話などをまじえながら、朝鮮半島の激動の歴史をマンガで楽しく紹介。建国神話から現代まで。年表・人名索引付き。写真多数。対象：中学生以上

★各巻内容

第1巻 檀君神話から統一新羅まで

第2巻 高麗時代から朝鮮王朝の成立まで

第3巻 植民地時代から現代まで

国書刊行会

〒174-0056 板橋区志村1-13-15 (税別価)

☎ 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427

完全 新官庁情報 ベストセラー爆進中！
ハンドブックシリーズ

- 官庁の全体像がすばやく分かる。
- 就職する前に具体的にどのような仕事があるか分かる。
- 各省庁の細かい区分けが分かる。
- 各省庁がどのようなことに取り組んでいるか分かる。
- 新生日本の司令塔として、どんな問題に直面しているか分かる。

役立つ実用情報書 価格は税抜き

1. 内閣府	川北隆雄・尾上進勇(編)	1700円
2. 総務省	今藤 浩	1600円
3. 法務省	渡辺文幸	1600円
4. 外務省	今藤 浩	1500円
5. 財務省	執印隆一	1500円
6. 文部科学省	加古隆浩・水井 理	1500円
7. 厚生労働省	上坂隆子	1400円
8. 農林水産省	川北隆雄・尾上進勇(編)	1400円
9. 経済産業省	村上水樹	1400円
10. 国土交通省	福池智之	1400円
11. 環境省	嶋志田公明・田中泰英	1500円
12. 活用ガイドブック	編集部(編)	1800円
13. フロア・テレフォンガイドブック	編集部(編)	1800円



株式会社 インターメディア出版

〒160-0005 東京都新宿区愛宕町23

Tel. 03-5366-1851 (代表) Fax. 03-5366-1885

税別価格 高校図書館必備 好評増刷出来！

「国史大辞典」別巻 — 日本史年表決定版
日本史総合年表 全一冊
加藤友康・瀬野精一郎・島海靖・丸山雅成編 二〇〇〇円
旧石器時代から一九九九年まで政治・経済・社会・文化にわたる三万六五〇〇項目を収録。巻末に便利な日本史備要と、「国史大辞典」と併せて利用できる詳細な「索引」を収録した画期的編集。四六倍判〈内容見本送呈

坂本竜馬から小泉純一郎まで、重要人物を網羅
日本近現代 全一冊 二〇〇〇円
鳥海 靖 由井正臣 編
白井勝美 高村直助 編

黒船来航時から現代までに活躍した四五〇〇人を収録。巻末には項目以外の人名等からも検索できる「索引」と便利な「没年月日順人名一覧」を付録する。四六倍判

東京都文京区本郷七丁目二一八
電話〇三三三八二二一九一
吉川弘文館

大きな活字で読みやすい本最新シリーズ

怪奇・ホラーワールド 全15巻

揃定価：揃本体42,000円（税別）
A5判新フランス装 平均254頁

- ①妖美の世界 ②科学の脅威
- ③呪いの恐怖 ④幽霊怪談
- ⑤魔性の生き物 ⑥恐ろしき執念
- ⑦人外魔境 ⑧日常の呪縛
- ⑨モダン・ホラー ⑩過去への幻想
- ⑪異界への入口 ⑫時の輪廻
- ⑬死者の復活 ⑭水の妖怪
- ⑮ファンタジー



20世紀日本ホラー文学の集大成！

リブリア出版

東京都文京区大塚3-5-11住友成島小石ビル別館3階
〒112-0012 TEL03-3943-8885 FAX03-3943-3540
Website www.librio.com E-mail info@librio.com

源氏物語の決定版、ついに書籍化 11月5日刊行開始

増補改装 監修：鈴木一雄
本体価格 各2700円
源氏物語の鑑賞と基礎知識

第1回配本 3冊同時発売

桐壺 神作光一編
須磨 日向一雅編
橋姫 雨海博洋編

シリーズ特長
■原文を第一に。
■多分野を結集、充実の鑑賞欄
■圧倒的な図版量。
■最新の研究動向を併録

どうすれば原文を読めるか。どうすれば原文の深みを味わえるか。そのための工夫を随所に散りばめました。

至文堂 〒162-0812 東京都新宿区西五軒町4-2
TEL 03-3268-2441 FAX 03-3268-3550

限りなく広がる知識の世界 辞典600点突破!

世界宗教建築事典



中川 武監修 世界遺産の中心をなす宗教建築の全体像を捉えるため、249件の遺構を、写真や図版を用いて解説した。
菊倍判変型 392頁 本体13000円

中国少数民族事典

田畑久夫・金丸良子他編 トンシャン族・カザフ族などの少数民族55の伝統や文化及び、歴史・社会・自然環境・経済・信仰など図版・写真を入れ解説。 A5判 254頁 本体3800円

東京堂出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7
電話03(3233)3741 辞典目録進呈

脳とプリオン —狂牛病の分子生物学—
小野寺節・佐伯圭一著 本体2600円(税別)

地震のはなし
茂木清夫著 本体2900円(税別)

数学オリンピック事典
財団法人数学オリンピック財団編 本体16000円(税別)

国語教育辞典
日本国語教育学会編 本体15000円(税別)

イソンド
図説世界文化地理大百科 本体28000円(税別)

総合図書目録02 I あります。ご請求下さい。

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 ☎03-3260-7631

根をもつこと、翼をもつこと



田口ランディ 困難な時代においても、未来をおそれずに生きる人に捧げる、ピュアな言葉の花束。『できればムカつかずに生きたい』(13刷1470円/第1回婦人公論文芸賞受賞)に続く待望のエッセイ。 1470円

晶文社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03(3255)4501 ※価格は税込
<http://www.shobunsha.co.jp/>

エコロジー事典

E・キャレンバッツハ著/満田久義訳 バクテリアから地球生命圏まで、エコロジーの基本概念60項目をわかりやすく解説した入門書。 二二〇〇円

まるごとガイド シリーズ好評既刊

資格のとり方・しごとのすべて

A5/美装

- ① 社会福祉士まるごとガイド「改訂版」
- ② 介護福祉士まるごとガイド「改訂版」
- ③ ホームヘルパーまるごとガイド
- ④ 保育士まるごとガイド
- ⑤ 理学療法士まるごとガイド
- ⑥ 作業療法士まるごとガイド

1500 1500 1200 1200 1200 1200

⑦ 看護婦・士まるごとガイド

日本看護協会監修●資格のとり方・しごとのすべて 人の命と健康を守る分野で活躍する専門職を現場取材を豊富に取り入れ、解説する。一五〇〇円

好評シリーズ待望の最新巻 ついに刊行!

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 ※価格は税別

国立科学博物館叢書①

日本の博物図譜 一十九世紀から現代まで
国立科学博物館編 B5判 128頁 定価(本体2600円+税)
日本人は豊かな自然をどのように見つめ、描いてきたか

身近な植物から花の進化を考える

小林正明 著 B5判 オールカラー 264頁
定価(本体2500円+税)
自然あふれる信州の校長先生がやさしく教える植物形態・分類学の入門書

虚数の情緒

—中学生からの全方位独学法
吉田 武 著 A5判 1032頁 定価(本体4300円+税)
虚数を軸に人類文化の全体把握を目指す。21世紀の教養はこの本から始まる。

東海大学出版会

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 電話03(5478)0891
蔵商品管理センター 電話048(447)8570
WebPR誌 WebTOKAI 公開中 <http://www.press.tokai.ac.jp/>

加藤周一対話集「別巻」

過客問答 加藤周一

◎「知の巨人」50時間の語り下ろし
世界・人生・芸術への知的旅行談。その含蓄に深く啓発される一冊(「赤旗」書評)。ざつぱらんな「語り」の中に現代を考えるためのヒントがさりばめられている(共同通信)
各紙絶賛 四六上製300頁 本体2800円

加藤周一対話集 別巻1

- ① 「日本的」ということ
- ② 現代とはどういう時代か
- ③ 「国民的記憶」を問う
- ④ ことばと芸術

全巻完結! 各巻2800円

かもがわ出版

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
TEL 075 (432) 2868 FAX 075 (432) 2869